

ご祭神 **神日本磐余彦天皇**  
(神武天皇)

皇宮神社は今の宮崎神宮の地に宮居なさる以前の宮居の地か、或は行宮の跡であったのではなからうかと思われまます。仰げば西方遙か高千穂の峰を望み、目を下に転ずれば大淀川の清流延々として帯の如く市街を縫い、実に皇居跡に相応しい聖地であります。

昭和十年十一月十四日の陸軍特別大演習の折には、昭和天皇のご巡覧がありました。また昭和十五年の紀元二千六百年の記念事業の一環として、宮崎県奉祝会により皇軍発祥之地の碑が建立されて顕彰されました。現在の社殿は伊勢神宮の第六十回神宮式年遷宮(昭和四十八年)後、古殿舎撤下材(外宮外幣殿)を、昭和五十一年にご改築したもので、同年七月二十四日夜八時より遷座祭が斎行されました。

相殿 **手研耳命(御子)**  
**吾平津姫命(御妃)**  
**淳名川耳命(御子)**



宮崎神宮社務所

宮崎県宮崎市神宮2丁目4番1号  
電話(0985)27-4004  
FAX(0985)27-4030  
<https://miyazakijingu.or.jp>

略記 宮崎神宮



◇初代天皇「神武天皇」をおまつりする

宮崎神宮

ご祭神 **神日本磐余彦天皇**  
(神武天皇)

宮崎神宮の創建

社伝によれば、当神宮は神武天皇の孫にあたる健甕龍命(熊本・阿蘇神社)が九州の長官に就任した際、祖父のご遺徳をたたえるために鎮祭したのが始まりと伝えられています。下って第十代崇神天皇、第十二代景行天皇の熊襲ご征討の際に社殿のご造営があり、ついで第十五代応神天皇の御代、日向の国造が修造鎮祭した旨が旧記に伝えられています。

相殿

**鶺鴒草葺不合尊(御父)**  
**玉依姫命(御母)**

現在の社殿は、日向の名材狭野杉を用いた白木の銅板葺き神明流造りで、神武天皇御降誕大祭会により建て替えられました。会の幹事長は郷土の偉人高木兼寛氏が務められ、伊東忠太氏が設計、佐々木岩次郎氏が造営を監督し、明治四十年に完成しました。なお、平成二十二年には国登録有形文化財に指定されています。



# 神武天皇のご偉業

神日本磐余彦天皇は、ご幼名を狭野尊と申し上げました。天照大御神から五代目の御孫にあたります。鵜鷺草葺不合尊(鵜戸神宮)ご祭神)の第四皇子で、母は玉依姫命と申します。

天皇は、御年十五歳の時皇太子に即かれ、日向国で政治をとられました。但し、当時は未だ全国統一がなされた時代ではなく、皇威が全国に輝くというわけではありませんでした。そこで、天皇は父祖のご意志を継ぎ、天下万民が幸せに暮らせるようにとお考えになり、御年四十五歳の時に、都を日本の中央に遷すべく美々津の港から船出され、ご東遷の途につかれました。

皇軍は、海路速吸之門(豊予海峡)を通過、菟狭(大分県)、岡水門(福岡県)、埃宮(広島県)にお寄りになり、翌年三月には高嶋宮(岡山県)に到り、三年をかけて軍備を整えられました。それから、浪速の河内国草香邑(大阪府)に上陸されたのですが、賊酋長髓彦が降伏しなかつたことから、遂に道を改め海路紀伊国へ熊野路(和歌山県)から攻め入られたのです。

此の間、皇兄五瀬命は戦傷で薨去され、また熊野灘では皇兄三毛入野命と稲飯命を始め幾多の将兵を失われるなど、苦戦艱難をなめさせられました。

熊野に上陸した天皇は、高倉下や頭八咫鳥の忠勤によって大和に攻め入り、ご平定遊ばされました。そして、畝傍の橿原に宮殿を建てられ「八紘を掩いて宇と為さむ」とおっしゃって、第一代の天皇にご即位遊ばされました。ここに我が国の建国はめでたく成就され、以来皇統は、一二六代今上天皇に至ります。

## ご称号と旧社格

当神宮は古来、神武天皇宮、神武天皇社と申し上げましたので、今も宮崎県民は「神武さま」と敬って申し上げます。明治以降次のような変遷をたどりました。

- 明治 六年五月 県社に列せられ宮崎神社と改称
- 明治 八年八月 国幣中社に昇格
- 明治 十一年五月 宮崎宮と改称
- 明治 十八年四月 官幣大社に昇格
- 大正 二年七月 宮崎神宮と改称
- 昭和二十一年二月 神社制度の変革により社格が廃止される



「神武天皇宮」鳥居の額



「宮崎宮」神苑石碑  
明治22年2月と記されている

## 御神幸祭(神武さま) 十月二十六日後の土日

御神幸祭(神武さま)は、御東遷の御聖業を偲び奉って斎行されます。

御鳳輦を中心とした荘厳な祭りで肅々と渡御遊ばされるもので、さまざまな衣装に身を包んだ隊列が延々と続きます。九州三大祭りの一つと言われ、沿道はたくさんのお見物客で賑わい、秋の宮崎を彩る県下最大のお祭りであり、ます。もともとは、氏子区域を回る小規模なお祭りでしたが、明治四十二年に今のようになり、今日ではミスキャンション馬等の神賑行列も加わり、宮崎県民の熱意に支えられながら、時代の変遷と共に発展しています。

### 御神幸之圖



## 神事流鏑馬 四月三日

神事流鏑馬は、鎌倉武士の装束に身を固めた騎馬武者たちが馬を疾駆して、大弓で的を射る古神事です。新緑の神苑にくり広げられる勇壮華麗な春のこの神事は、さながら一幅の絵を見るように、なつかしい国振りの歴史を再現してくれます。

古く、日向の国は  
眞蘇我よ 蘇我の子等は  
馬ならば 日向の駒  
太刀ならば 呉の眞鍮  
宜し哉 蘇我の子等を  
大君の 使はすらしき  
(日本書紀)  
と推古天皇の御代の豊明に謳われ、良駿の産地でありました。  
昭和十五年紀元二千六百年を慶祝して古儀が復興されました。



## 【別宮】狭野神社 御祭神 神武天皇(御幼名 狭野尊)

西諸県郡高原町狭野鎮座。

第五代孝昭天皇の御代に神武天皇御降誕の地に御創建されたのが創祀といわれます。神社より西方一キロに鎮座する末社皇子原神社には、産場石と呼称される神石が奉斎されており、御祭神御生誕の際に産湯をおとりになられたと伝承され、今なお安き出産をもたらしで戴けると伝えられています。

なお、大正四年六月から昭和二十七年七月まで宮崎神宮別宮に指定されていました。

【末社】五所稻荷神社 御祭神 保食神 他

境内に鎮座し、昔から農、産業、衣食住、商売繁昌、諸業繁栄の守護神として広く崇敬されております。御創建年代は不詳ですが、社殿前の手水鉢に、文政十年九月奉納とあり、それ以前から祀られていたものと思われます。明治十一年二月宮崎宮(現宮崎神宮)の末社に列せられました。以前は宮崎神宮本殿東側に鎮座されていましたが、明治三十二年現在地に移転されました。現在の社殿は、平成二年の御大典、皇紀二千六百五十年の奉祝記念事業として改修されたものです。



ご東遷の作戦を練っている神武天皇と三人の兄たち(「宮崎の宮」画・平澤定治 宮崎神宮蔵)



日向から大和へ